経営協議会 議事録

【開催日時】 2024年4月15日(月) 17:15~

【開催場所】 ヤサカビル 8階大会議室

【出席者】 (会社側) 伊倉代表取締役社長、宮田代表取締役専務、川崎執行役員、小川執行役員、
恒吉執行役員、中道執行役員、外村人事担当長

(組合側) 印藤本部執行委員長、村上本部副執行委員長、西村本部副執行委員長、
海上本部書記長、藪野本部書記次長、淡路本部書記次長、櫻井本部会計

《外村人事担当長より会社回答内容報告》

・会社回答内容について説明

《印藤本部執行委員長より会社回答に対するコメント》

この度は春闘要求に対する回答をいただき有難うございます。

賃金要求、制度要求について述べさせていただきます。

1. 賃金要求について

①本給について

我々が要求していた全等級ベースアップ1万円はかないませんでした。C4以下のベースアップにおいては要求通り一律1万円のベースアップをいただけた事に感謝申し上げます。メンバーの声で特にC1、C2においては仕事にはやりがいを感じているが給与面で生活が厳しい為、WJRIを離れていったメンバーも中にはいました。このベースアップは、お買い場を一番支えてくれているメンバーがWJRIで長く働けることに繋がります。今後も物価上昇が予想される中でメンバーの生活維持の為にも次年度も引き続き交渉を継続させていただきたいと考えています。その為にも安定した成果を出せるよう我々メンバー一同取組んで参ります。

②賞与・一時金・特別加算給について

賞与・一時金にて我々の要求を上回る回答をいただき有難うございます。更に、債務超過、コロナ禍と厳しい期間を過ごしてきたメンバーの努力に対する特別加算給をいただけたこと非常に嬉しく感じています。賞与、一時金、特別加算給を足すとステージB基準では債務超過前の5カ月にせまる支給ヶ月数であり、このことは、成果を出せば出した分、きちんとメンバーに還元していただける会社であることがメンバーに伝わる数値です。これを糧とし、本年度の更なる業績の向上、そして次の30周年の成長にむけたモチベーションに繋げて参ります。

2. 制度要求について

制度要求の一番の肝である短時間勤務制度(育児勤務制度)の見直しについて継続協議という回答をいただきました。今まで10年の壁、小4の壁にあたり辞めざるをえないメンバーが数多くいました。いち早くこの制度の見直しが必要だと感じています。

会社側の皆様が不安視されている業務運営体制の確保ができるのかなどについては、再度、短時間勤務者の周囲の方の声を聴き、全メンバーにとってプラスになる制度構築にむけて協議を継続して参りたいと考えています。宜しく願いいたします。

債務超過が解消し、WJRI は更なる成長発展のフェーズに突入いたしました。会社の成長発展のベースとなるのは「人財」です。ファンは人=メンバーにつきます。今後更なるファンづくりを進めていく中でメンバーが長く働き続けられる環境・制度を今後とも労使で協議し、「働きやすさ」「働きがい」を感じ、一人ひとりが成長し、労使の発展に繋がるよう我々組合メンバー一同取組んで参ります。引き続き宜しく願いいたします。

《海上本部書記長より春の交渉における組合の考え方と会社回答に対する回答》

今回の春の交渉は、2023 年度から継続する急激な物価上昇や政府からの賃上げ要請など、昨年以上に賃金改善を求める声が高まる中でスタートとなりました。既に主要産業ではベアと定期昇給を合わせて 5%超の賃上げが実現し、ベア単体でも 3%を超える結果となっています。景気の回復に応じる各大手企業は、人財の確保を最優先に、大幅な初任給引き上げやベースアップをアピールしている状況です。

そうした中で、我々は前年度に引き続き、「人財への投資」と「エンゲージメントの強化」を軸に活動を行ってきました。W J R I で働くメンバーに、この会社はこれからもっと良い会社になっていくと感じてもらえるよう、執行部内でも議論を重ねて、今回の要求内容を決議いたしました。

以下、各要求内容と会社回答に対して、印藤委員長のコメントを補足する形で端的に申し上げます。

1. 賃金要求について

まず、ベースアップに関しては、前年度に引き続き一律実施を頂けたこと、加えて等級に応じた上乘せを実現頂けたことに、改めて御礼申し上げます。

賞与と一時金に関しては、印藤委員長がお伝えさせていただいた通りではございますが、単年度の回答にとどまらず、債務超過の解消やコロナからの脱却など、今までの辛く厳しい時代を乗り越えてきたことへの労いという形で、特別加算金をいただけることについて。

あくまでも本年度限りの加算金という形ではありますが、組合員にとってはこれまでの苦勞が報われた点において、非常に大きな意味を持つものであると感じています。重ねて御礼申し上げます。

また、大卒初任給に関してですが、要求通りの内容でご回答して頂きました。ありがとうございます。ただし、昨今の情勢により、同業他社・他業種などの多くで、初任給の引き上げを継続実施していることから、今後、有能な人財を確保する為にも、大卒初任給に関しては、次年度以降も慎重に検討したいと考えております。

2. 制度要求について

制度要求については、同意を頂けた内容、継続して検討・協議を行う内容と回答が分かれる形となりました。詳細の説明は割愛させていただきますが、いずれの要求につきましても刻一刻と変化する時勢を踏まえ、労組内で提起・決議をさせて頂いた内容ではございます。

早急な対応が求められる制度の見直しについては、労組としての組合員の声を継続して拾い上げることは勿論、会社側とも積極的に議論を交わしながら、より良い形での実現に向けて取り組んで行きたいと考えております。

3. 通年協議事項について

今年度も、前年同様に、4つの大きな枠組みを設けて、各項目について協議をお願いしております。時間も限られているため、各項目の詳細は実際の担当間協議の際にお話しできればと思いますが、いずれの協議内容も、「組織の活性化」と「エンゲージメントの向上」に繋がる内容にしております。

時代やニーズに合わせて、常に柔軟な発想と変化・対応ができることが企業としての強みとなり、魅力度の向上に繋がると考えますので、引き続き、労使協議をよろしくお願い致します。

《宮田代表取締役専務より会社側総評》

お疲れ様です。2011年度、この会社が大阪に出店し、大きな赤字を抱える結果となりました。そのため、皆さんの賞与も大きく下がってしまいました。その後、13年が経ち、会社の歴史の半分近くにわたり、皆さんには長い間苦勞をかけ、過去のような規模の賞与も支給できず、それでも会社に対して恨み言を言わず、歯を食いしばってこの状況を乗り越えようとし続けてくださいました。その結果、こうして13年後にこの日を迎えられることを本当にありがたく思います。皆さんの努力が実を結び、その成果が適切に社員に還元されることとなりますので、組合側から感謝の言葉を頂きましたけれども、それはある意味皆さまの権利であると考えますし、これまでの苦勞が報われ、努力が評価されることに対し、胸を張って受け取っていただきたいと思います。

10月以降、様々な場でベアの話題が出始め、春に向けて社会の動向を注視しながら進める必要があると感じていました。しかし、秋の時点では、このような高い営業利益を出せるという確信はありませんでした。そのため私自身、悩みましたが、皆さんの努力により、十分な成果が上がり、会社も前進できる状況になったことを感じています。賞与だけでなく、労働条件とは直接関係はありませんが、このタイミングで使えるようになった資金を使い、施設の改修などを進めていますし、今後も計画的に進めていける状況にもなってきました。

債務超過解消自体は、両親会社からの増資によるものですが、それはこの会社で働くみなさまが底力を示し、再成長を目指すということに対して、両親会社が判断した結果です。会社とみなさまが一体となり、この苦しい時期を乗り越えたからこそ、今日を迎えられたと考えています。改めて皆様に感謝申し上げます。

一方で、経営基盤が盤石であり、手放して成長できる状況ではありません。人件費や外部委託費などの経費が増える中、生産性を向上し、経費を抑えながら売上を伸ばす必要があります。これからの経営状況は予断を許さないので、賞与を維持するためにも努力が必要です。皆さまの権利を守るため、一層の努力をお願いします。経営側も必要な対応を行い、労使で協力して進んでいきましょう。

制度関係については、現時点での考えとして要求全てに応えることは出来なかったですが、気持ちとしてはすべて前向きに、社員のためにやるべきことをやっていこうという気持ちは完全に一致しておりますので、2人3脚で共に頑張っていきましょう。

現状の労使関係であれば乗り越えていけると考えますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

《西村本部副執行委員長からのコメント》

2011年に入社し、2年目から債務超過に陥りました。当時、賞与がこの水準に達することは夢物語だと考えていましたが、実際にここまでの賞与や賃金水準に到達できたことは、営業活動が顧客からの支持を受けた結果であり、その成果が生活に直接還元されることを実感することができました。また、お買い物のスタイリストとしても、顧客の希望に満ちた結果として捉えています。これからも職場での努力を惜しまず、さらなる成長を目指していきたいと思えます。

《伊倉代表取締役社長より春の交渉妥結の挨拶》

今回、皆さんがよく頑張ってくれたこと、そして根気強く会社と組合の皆さんが協議した結果、新たな一歩を踏み出せたことに感謝しています。良好な関係は会社と従業員の皆さまの状態が良いという前提であり、この状態を保ちつつ改善しながら前進していけると良いと思えます。

私も社長に就任して1年が経ちますが、最初の頃と比べると進展が見られますが、やるべきことはまだまだたくさんあります。人財育成や働く環境改善など、これらは互いの真の合意に至るには時間がかかります。今回掲げた会社のビジョンや2032年のゴール、京都の百貨店企業No.1になるためには、短期間では成果を出せません。1年1年積み上げていき、皆さまとの関係を良くし、従業員の方々が当社で働いて良かったと思えるよう努力しています。周りの人から「WJRIで働いているのは羨ましいね」と言われるような会社に近づけるよう、今後も努めてまいります。

今年度も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。